



令和 6 年度

亀山市立神辺小学校

研究デザイン

教育大綱 基本方針 - 1

未来を拓く子どもたちの豊かな学びの実現

亀山市教育関係職員 研修基本方針

「一人ひとりの児童・生徒が個性を生かしながら

なかまとともに主体的に学ぶために」

- (1) すべての子どもの学ぶ意欲を高め、社会で生きてはたらく「確かな学力」を育てる教育活動をすすめる。
- (2) 教師の授業力向上を追求するとともに、系統的な指導をすすめる。
- (3) 人権を尊重し、なかまとともに、豊かな心と身体をはぐくみ、自己肯定感・自己有用感を高める教育活動をすすめる。
- (4) 地域の人材や活動を活用し、地域とともに特色ある教育活動をすすめる。

学校教育目標

『自ら学び、心豊かにたくましく生きるやなぎっ子の育成』

めざす子ども像

〈自ら学ぶ子ども〉

- ・学習に意欲的に取り組み、進んで問題を解決しようとする子
- ・相手の話に耳を傾け、深く考え、自らの思いや考えを表現できる子

〈心の豊かな子ども〉

- ・なかまを大切に、共に高まろうとする子
- ・郷土の良さをみつけ、美しいものや自然に感動する子

〈心身ともに健康な子ども〉

- ・命の重さを知り、自他を尊重する子
- ・働くことに誇りや喜びをもち進んで役立とうとする子

めざす教職員像

- ・わかる喜びと学ぶ楽しさを実感できる授業づくりに努める教職員

- ・子どもの声や思い・願いを大切にしている教職員

- ・家庭や地域との対話を大切に、信頼関係づくりに努める教職員

- ・研修に励み、自らの力量向上に努める教職員

亀山市立神辺小学校研究主題

『自他を大切に互いを認め合い、高め合える集団づくり』
～行動に移せる実践力を育み、自身の生き方につなげる学習～

研究領域：生活科、総合的な学習の時間を中心とした全領域

1 研究主題設定の理由

神辺小学校は、市街地から外れた静かな環境の中にある。子どもたちは8つの地区から通学しており、在籍児童数は110名程度である。地域住民の方々の学校教育への協力意識も高く、登下校の見守りボランティアや学習ボランティアにも多数参加していただいている。地域の子どもの地域で育てる気運が高く、子どもが参加する地域行事も盛んに行われている。

子どもたちは落ち着いた学校生活を送っており、まじめな態度で学習に取り組む子どもが多い。また、生活面においても委員会や当番の仕事に責任をもって取り組む姿や、縦割り活動で高学年が中心となり活動を進めていく姿が見られる。一方で、本校は単級校であるため6年間ほぼ同じクラスメイトと過ごす中で、学年が上がるにつれて人間関係が固定化する傾向にある。自分の仲のいいグループ以外の友だちと積極的に関わろうとしないことや、先入観から相手に対する否定的な固定観念を抱いている児童もいる。

そのため、昨年度から校内研修のテーマを『自他を大切に互いを認め合い、高め合える集団づくり』～行動に移せる実践力を育み、自身の生き方につなげる学習～として、学年ごとに人権テーマを決定し、テーマを中心としたさまざまな人権学習に取り組んできた。さらに、人権意識を育む人間関係づくりにも取り組んできた。その成果として、日々の学校生活の中で相手を気遣う声掛けが増えたことや、縦割り活動で上級生が下級生に対して見せる優しさから行動力が培われてきたと感じる場面もみられる。自他を大切に互いを認め合うという点に対しては一定の成果を感じることができた。しかし、自分の思いをみんなの前で出すことのできない児童や他者の考えを自分の考えに生かしてよりよい考えを生み出そうとする力などについては課題が残り、高め合える集団づくりについては向上の余地があるといえる。また、善悪の判断や望ましい行動については理解できているが、行動に移すことについても課題がある。そのため、本年度も昨年度の研究主題に引き続き取り組み、昨年度の学習に積み上げをねらうことで、自己啓発し、個々に高め合える集団づくりや行動に移せる実践力を育てていきたい。さらに、学習の過程で、自分の差別性や強み弱みに気づいていくことで、よりよい自身の生き方につなげさせていきたいと考える。

2 研究主題について

「自他を大切に互いを認め合い、高め合える集団づくり」を進める上で2つの学習活動を重視していく。一つは、「人権意識を育む人間関係づくり」である。教師が児童間の心的交流活動を意図的に仕組み、自己開示していくことで、個々の児童の自己肯定感と帰属意識の向上が期待できる。もう一つは、「人権意識を育む学習づくり」である。亀山中学校区人権カリキュラムに示されている人権課題について各学年が各教科と関連性を持たせながらテーマ学習を進めることで、人権課題の解決に向けた知識と態度を養うことをねらいとする。これら学習活動の中で醸成された意識や自分への気づきは常に生活とリンクさせ、反いじめ・反差別の行動につながるよう促していく。そのことが上記の研究主題に迫るものと考えている。

3 研究構想図

学校教育目標

自ら学び、心豊かにたくましく生きるやなぎっ子の育成

学校人権教育目標

自他を大切にしてい互いを認め合い、あらゆる差別を許さない心と実践力を育てる

亀山中学校区教育目標

自他を認め、ともに学び合い、高め合う児童・生徒の育成

本校研究主題

自他を大切に互いを認め合い、高め合える集団づくり
～行動に移せる実践力を育み、自身の生き方につなげる学習～

人権意識を育む人間関係づくり

【全学年共通】

自己肯定感を高める

- ・自分のことを考える
- ・自分の気持ちを表現する
- ・自分や家族のことを伝え合う
- ・一人一人が活躍する
- ・互いに認め合う

友だちとのかかわりをつくる

- ・友だちのよさを見つけ伝え合う
- ・いじめ等身近な問題を解決する意欲を高め、具体的に行動する
- ・他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力を養う
- ・児童会を中心として、自治的・主体的に活動する

人権意識を育む学習づくり

【学年別テーマ】

課題解決への知識と態度

- ・自分自身や自分の生活について考え、表現する。【1・2年】
- ・多文化共生教育を通して社会に暮らす人々の権利について知る。【3年】
- ・障がい者理解学習を通して社会に暮らす人々の権利について考える。【4年】
- ・個別の人権問題（性的マイノリティー・ハンセン病・子どもの人権）を通して差別を見抜く力をつける。【5年】
- ・部落問題を通して差別を許さない態度と実践力を身につける。【6年】

4 具体的な取組

やなぎっ子タイム

毎週木曜日の朝学習の時間に、各クラスでかかわりの力を育むための「やなぎっ子タイム」を実施する。この活動では、児童が安心して自分の思いを語り合える関係づくりの土台を築くことをねらいとする。具体的には、活動の約束を守ることや相手の気持ちを考えることなどのソーシャルスキルの側面と、ペアやグループ、時間や活動内容などの枠組みを決めて安心してかかわる構成的グループエンカウターの側面からアプローチしていく。やなぎっ子タイムのかかわりをきっかけとし、日々の各教科等でのペア・グループワークを通してかかわりの力をつけていくことで、自分の内面を語る力や、相手の考えを受容する態度を育成したい。

さらに、2学期以降には、異学年でのペアやグループによるやなぎっ子タイムを展開していく。このことにより、神辺小学校の魅力の一つである縦のつながりの力をより高めるとともに、自己啓発していける心情を育み、めざす自分像をイメージさせていきたい。

学年別テーマによる人権学習

1学期は、各担任が心にとめる子を中心とした児童の日常生活の観察やQU アンケート等を基にクラスの実態を把握し、児童や学級の課題を明確にしたうえで、課題を解決するための研究授業を実施する。授業づくりにおいては、当該学年の目指す子ども像に近づくよう各ブロックで相談しながら検討を行う。各学年それぞれの発達段階に応じた目標と学習内容を計画し、他教科や次年度以降の学習とも系統性を持たせた内容を構築していきたい。研究授業については指導主事から指導・助言をいただくことで、その後の授業改善につなげていく。人権学習は、自分に気づく学習、未来を創るための学習であることを全教職員で共通理解し、人との出会いや体験的な学習を積極的に取り入れることとしたい。

5 年間予定

4月	今年度の研究の方向性の確認
5月	特別支援教育について・「やなぎっ子」タイムについて
6月	見つめる子について・提案授業指導案検討
7月	研究授業（2年・6年）
8月	心にとめる子を中心にした学級づくりレポート研修 人権教育の授業づくりの視点や方法 みえスタ・学調の問題及び結果分析と、2学期に向けた取り組み
9月	内容未定
10月	研究授業（3年）
11月	研究授業（1年・5年）
12月	人権集会 3学期の指導計画の検討
1月	内容未定
2月	研究授業（4学年）
3月	本年度の反省と来年度への展望について検討